

2020年12月16日 全8頁

Indicators Update

2020年11月貿易統計

輸出金額は前月から微減も輸出数量は増加基調を維持

経済調査部 エコノミスト 鈴木 雄太郎

[要約]

- 2020年11月の貿易統計によると、輸出金額は前年比▲4.2%とコンセンサス(同+0.4%)を下回り、前年比のマイナス幅が前月から拡大した。季節調整値では前月比▲0.3%と小幅ではあるが、6ヶ月ぶりに減少した。なお、輸出数量(大和総研による季節調整値)は前月比+2.0%と6ヶ月連続で増加しており、前月比ベースでの金額の減少は価格下落によるものとみられる。輸出数量を地域別に見ると、米国向け(前月比+2.3%)、EU向け(同+4.7%)、アジア向け(同+2.1%)はいずれも増加した。
- 先行きの輸出数量は回復基調が継続するとみている。ただし回復ペースはこれまでの力強い伸びと比べると鈍化するだろう。これまでの回復は世界各国で経済活動の再開が進んだことが主因であり、その中には、ロックダウン解除後の需要急増による在庫減を補うための輸出増が押し上げに寄与している。こうした需要は一時的なものであり、今後は緩やかな増加にとどまる公算が大きい。

図表1：貿易統計の概況

		2020年									
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
原系列 前年比 %	輸出金額	▲11.7	▲21.9	▲28.3	▲26.2	▲19.2	▲14.8	▲4.9	▲0.2	▲4.2	
	コンセンサス									0.4	
	DIRエコノミスト予想									▲0.1	
	輸入金額	▲5.0	▲7.1	▲26.1	▲14.4	▲22.3	▲20.7	▲17.4	▲13.3	▲11.1	
	輸出数量	▲11.2	▲21.3	▲27.3	▲26.9	▲21.9	▲14.9	▲7.7	▲1.6	▲4.0	
	価格	▲0.6	▲0.7	▲1.4	1.0	3.5	0.1	3.0	1.5	▲0.2	
	輸入数量	▲2.5	1.5	▲14.6	▲0.8	▲14.0	▲11.6	▲8.4	▲5.7	▲2.4	
季節 調整値 前月比 %	価格	▲2.6	▲8.4	▲13.5	▲13.7	▲9.6	▲10.3	▲9.7	▲8.0	▲9.0	
	貿易収支(億円)	72	▲9,312	▲8,413	▲2,729	71	2,444	6,837	8,717	3,668	
	輸出金額	▲3.9	▲11.0	▲5.0	1.6	6.1	5.5	4.0	2.7	▲0.3	
	数量	▲5.5	▲15.1	▲9.4	4.5	6.3	10.5	2.6	6.6	2.0	
	価格	1.7	4.8	4.9	▲2.7	▲0.3	▲4.6	1.4	▲3.7	▲2.2	
	輸入金額	6.1	1.1	▲10.4	▲2.2	▲2.3	0.4	2.4	5.0	▲4.0	
	数量	11.9	7.9	▲10.1	0.0	▲2.7	▲0.0	0.5	4.8	0.8	
税関長 公示レート	価格	▲5.2	▲6.3	▲0.4	▲2.2	0.4	0.4	1.9	0.1	▲4.7	
	貿易収支(億円)	▲1,957	▲9,023	▲5,257	▲3,256	1,013	3,752	4,741	3,621	5,702	
		107.96	108.56	107.17	107.78	107.23	106.19	105.96	105.51	104.68	

(注1) 税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

(注2) 数量と価格の季節調整値は大和総研による。

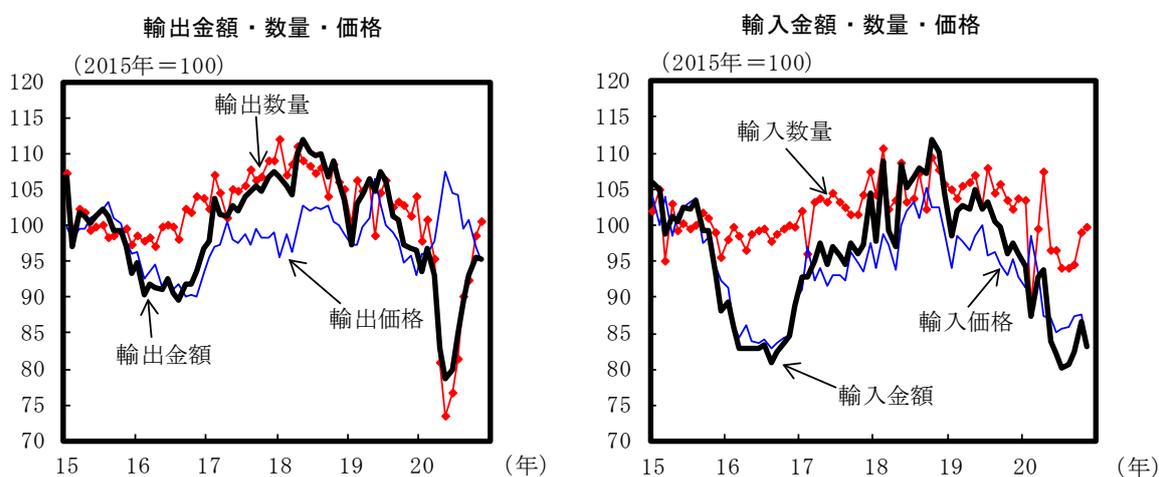
(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

【貿易金額】 輸出金額は小幅ながら減少も貿易収支は5ヶ月連続で黒字

11月の貿易統計によると、輸出金額は前年比▲4.2%とコンセンサス(同+0.4%)を下回り、前年比のマイナス幅が前月から拡大した。11月上中旬までは前年比+1.1%であったため、下旬の輸出が冴えなかったとみられる。季節調整値では、前月比▲0.3%と小幅ではあるが、6ヶ月ぶりに減少した。なお、輸出数量(大和総研による季節調整値)は前月比+2.0%と6ヶ月連続で増加しており、前月比ベースでの金額の減少は価格下落によるものとみられる。

輸入金額の前年比は▲11.1%と2桁のマイナスが続いている。季節調整値では前月比▲4.0%と4ヶ月ぶりに減少した。品目を見るとエネルギー関連が下押ししたとみられる。貿易収支は3,668億円、季節調整値では5,702億円といずれも5ヶ月連続で黒字となった。

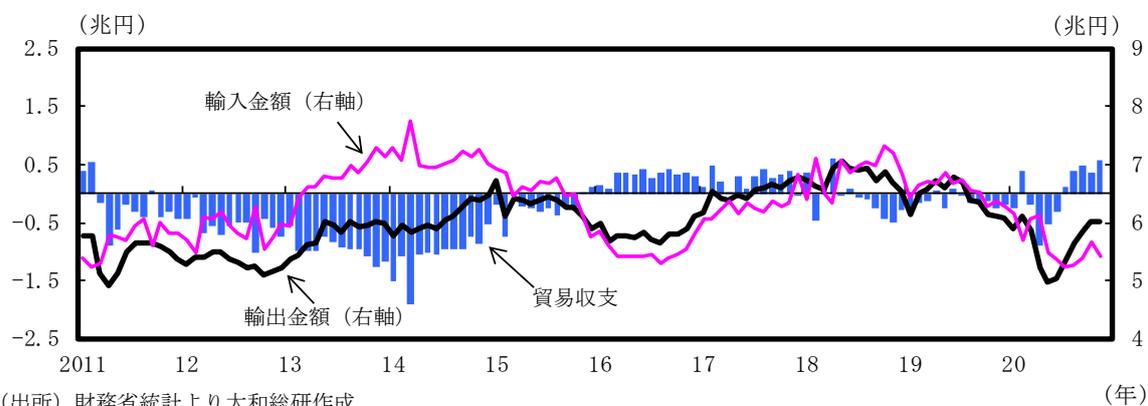
図表2：輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格(季節調整値)



(注) 輸出数量、輸入数量、輸出価格、輸入価格の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

図表3：輸出、輸入、貿易収支(季節調整値)



(出所) 財務省統計より大和総研作成

【輸出数量】全地域向けで増加、欧州のロックダウンの影響は一部品目にとどまる

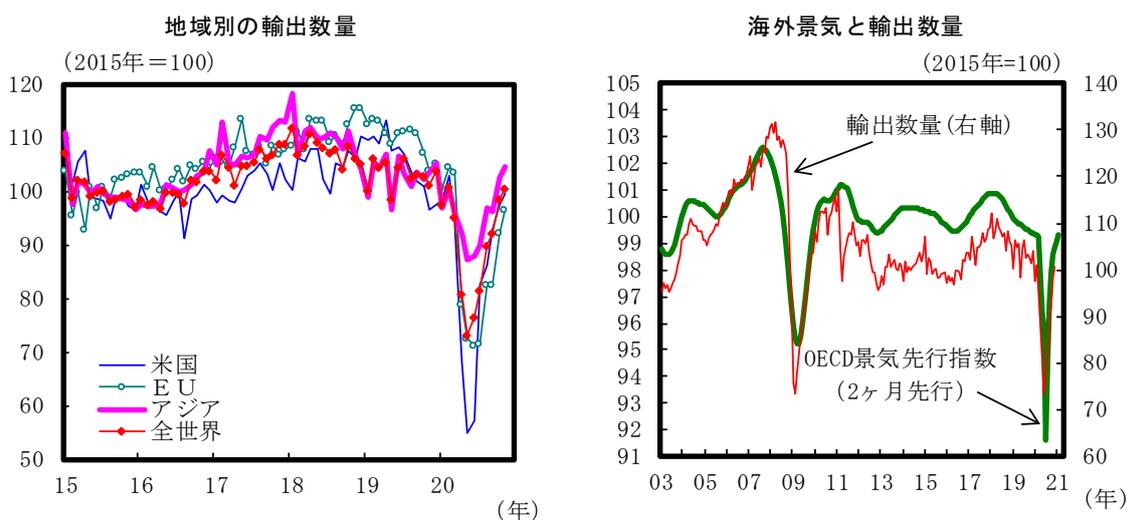
11月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+2.0%と6ヶ月連続で増加した。地域別に見ると、米国向け（同+2.3%）、EU向け（同+4.7%）、アジア向け（同+2.1%）いずれも増加した。EU向けは一部の国でのロックダウン実施に伴い減少すると見込まれていたが、増加基調を維持した。それぞれの地域向けの輸出数量を2019年平均対比で見ると、米国向けは▲5.3%、EU向けは▲12.3%、アジア向けは+1.4%となっている。アジア向けは中国向け輸出が全体を押し上げ、2019年平均の水準まで回復した。中国を除くアジア向け輸出で見ると、コロナショック前を大幅に下回っており、他地域と比べ回復が鈍い。

地域別・品目別に見ると、米国向けでは自動車の部分品や建設用・鉱山用機械などが全体を押し上げた。一方、6月以降全体を力強く牽引していた自動車輸出は減少に転じた。ただし水準で見ると、コロナショック前（2019年平均）を上回っており、9、10月からの反動という面が強いだろう。

EU向けでは自動車の部分品や電算機類の部分品、原動機などが増加した。他にもウエイトは大きくないものの、非鉄金属なども前月から増加している。他方、自動車や電算機類などは減少した。ロックダウンの影響はこうした最終需要財には影響が表れたとみられるものの、資本財や中間財が全体を下支えしたようだ。

アジア向けはプラスチックなどの化学製品やICなどが押し上げに寄与した。アジア向けのICは5ヶ月連続で増加しており、輸出数量はコロナショック前を大幅に上回っている。中国向けは原動機や自動車の部分品、半導体等製造装置が全体を押し上げた。一方、8月まで全体を大きく押し上げていた鉄鋼などの中間財輸出が足元で一服している。

図表4：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



(注1) OECD景気先行指数 (CLI) はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

【見通し】回復基調は継続するが、増加ペースは鈍化する見込み

先行きの輸出数量は回復基調が継続するとみている。ただし回復ペースはこれまでの力強い伸びと比べると鈍化するだろう。これまでの回復は世界各国で経済活動の再開が進んだことが主因であり、その中には、ロックダウン解除後の需要急増による在庫減を補うための輸出増が押し上げに寄与している。こうした需要は一時的なものであり、今後は緩やかな増加にとどまる公算が大きい。

地域別に見ると、米国向け輸出は増加基調をたどるとみている。米国内では追加の経済対策への期待が高まっている。経済対策には失業保険の継続などが盛り込まれており、合意に達すれば消費の拡大が期待され、米国向け輸出の増加ペースも速まるだろう。

欧州向けは伸びが鈍化するとみている。これまで欧州向け輸出は各国の政策対応で押し上げられていた面がある。例えばドイツのVAT減税は12月末で期限を迎えるため、1月以降は消費が一服する可能性があり、輸出も鈍化するだろう。

他方、中国向けは堅調さを維持するとみている。中国の鉱工業生産指数や固定資産投資などの前年比伸び率は4月以降堅調に推移している。加えて小売売上高も持ち直しが続いており、消費、投資ともに好調であることから幅広い財での輸出増が期待される。

また、英国や米国などでは新型コロナウイルスのワクチン接種が開始された。まだ先の話ではあるが、集団免疫の獲得によって経済が正常化に向かえば、各国の工場稼働率の上昇、先送りしていた設備投資の再開などを受け、欧米向けの資本財輸出の回復ペースも速まることになるだろう。

【トピック】中国輸出管理法が日本の貿易に与える影響

中国は12月1日、輸出管理法¹を施行した。同法は国家の安全保障や武器拡散防止といった国家の安全と利益を守るために軍用品やデュアルユース（軍民両用）品などの特定品目の輸出を禁止できる旨を規定している。

同法によって日本への輸出についても適用されるリスクはある。2010年に生じた日本の海上保安庁の巡視船と中国漁船が尖閣諸島沖で衝突した事件（尖閣諸島問題）の際にはレアアースの輸出に制限がかかった。そこで、今回は中国からの輸入金額が高い品目、ならびに中国への輸入依存度（輸入金額全体に占める中国からの輸入額の割合）が高い品目をまとめた（**図表5**）。

まず、中国からの輸入金額が大きい品目を見ると、1位はスマートフォンなどの電話機、2位がコンピュータ関連機械である。いずれも中国への依存度が70%を超えており、中国からの輸出制限がかかった時の影響は大きくなる可能性が高い。また、依存度が高い品目を見ると、繊維製品や、コークス、マグネシウムといった資源関連、玩具等の軽工業品が上位に名を連ねる。なお、近年中国で生産が増加しているドローンについては、2019年の対中依存度は62.2%となっている²。繊維製品や玩具などは軍用品やデュアルユースとは認定されにくいというえ、輸入金額自体は相対的に小さいため、影響は限定的であるとみられる。

尖閣諸島問題の際に制限がかかったレアアースについては、2009年の対中依存度（数量ベース）は84.9%であったが、年々低下傾向にあり、2018年は57.8%まで低下している³。ベトナムやマレーシアなどへ調達先の分散化が進んだものの、中国への依存度は高い状態にある。レアアースは電気自動車や家電の材料に利用されており、制限発動に伴い調達が困難となった場合、自動車生産・輸出などに影響を及ぼす可能性がある。

図表5：中国からの輸入金額が大きい品目と対中輸入依存度が高い品目

中国からの輸入金額上位10品目（2019年）			対中依存度が高い品目（2019年）		
品目名	シェア（%）	輸入金額（億円）	品目名	シェア（%）	輸入金額（億円）
電話機及びその他の機器	74.8	19,793.5	曳航用又は押航用の船舶	100.0	4.3
コンピュータ関連機械	76.2	14,367.3	繭	100.0	0.1
自動車の部分品及び附属品	37.1	3,285.9	羊毛、織獣毛又は粗獣毛のくず	100.0	0.1
ジャージ等	58.6	2,932.5	乳母車及びその部分品	99.4	65.8
モニター及びプロジェクター並びにテレビジョン受像機器	67.9	2,810.6	手ふるい	99.0	0.9
ダイオード、トランジスターその他これらに類する半導体デバイス等	52.0	2,806.7	五酸化二りん、りん酸及びポリりん酸	98.9	35.1
旅行用バッグ等、財布、マップケース等	40.8	2,624.3	コークス及び半成コークス並びにレトルトカーボン	98.8	278.5
印刷機、複写機及びファクシミリ並びに部分品及び附属品	57.5	2,564.9	織獣毛及び粗獣毛	98.7	13.3
コンピュータ関連機械の部分品及び附属品	70.2	2,414.3	ピッチ及びピッチコークス	97.6	17.9
女子用のスーツ等	60.3	2,344.8	さなだ等から成る物品など	97.4	122.0

（注）品目名は一部簡素化して表記。

（出所）財務省統計より大和総研作成

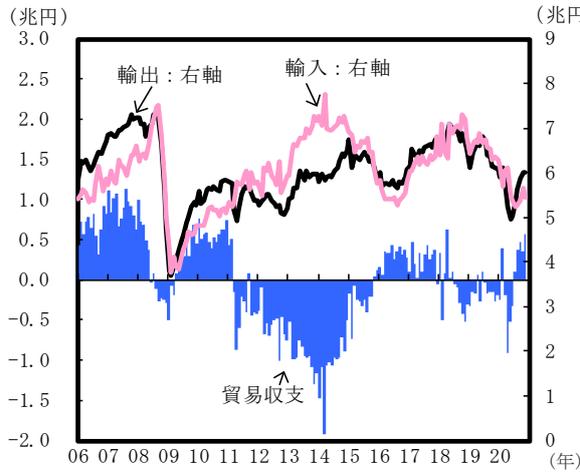
¹ 詳細は齋藤尚登「[中国の輸出管理法とTPP参加意向表明にどう対応するか？](#)」（2020年12月10日、大和総研コラム）を参照。

² 数値の出所はJETRO「ジェトロ世界貿易投資報告2020年版」（2020年7月30日）より計算。

³ 数値の出所は独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）「鉱物資源マテリアルフロー2019」（2020年5月21日）より計算。

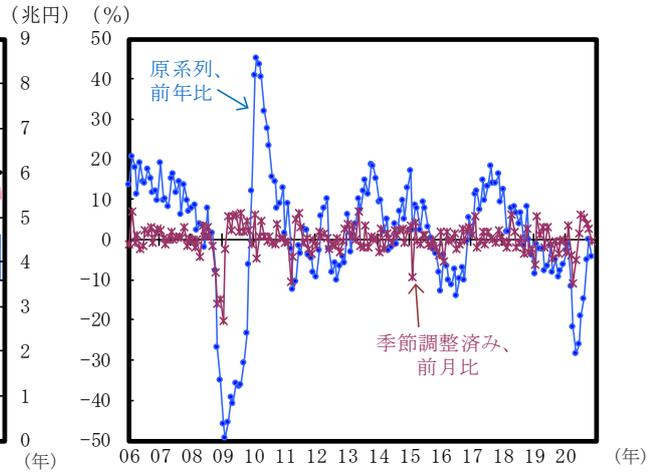
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

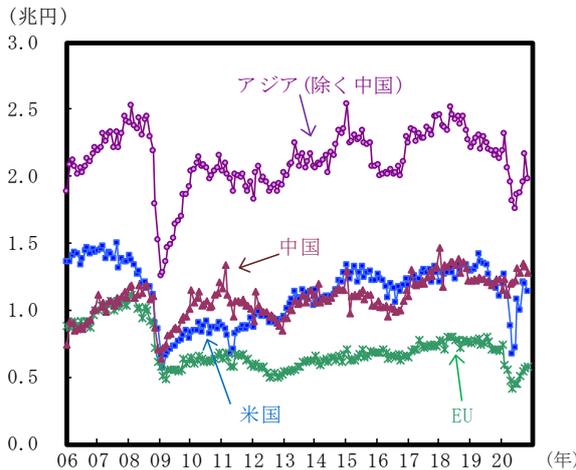


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

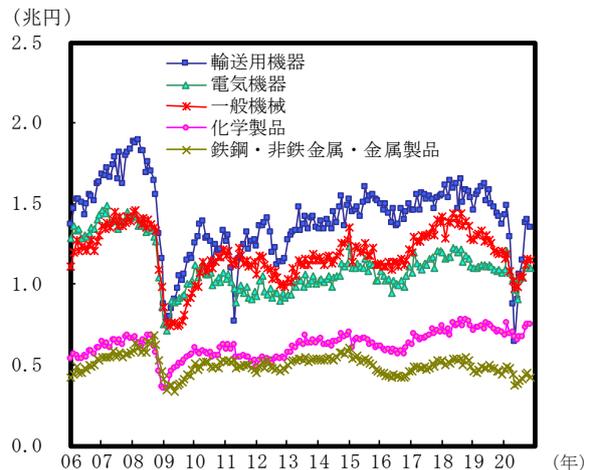


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)

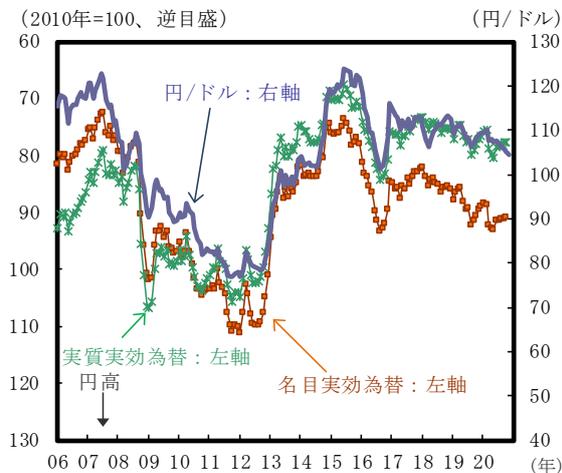


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)

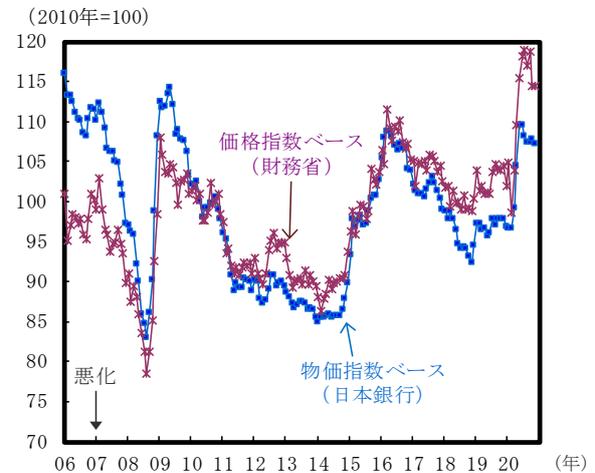


為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件



輸出金額 内訳								
	2020/06	2020/07	2020/08	2020/09	2020/10	2020/11		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲26.2	▲19.2	▲14.8	▲4.9	▲0.2	▲4.2	100.0	▲4.2
食料品	▲3.2	4.7	13.1	15.6	21.5	9.8	1.2	0.1
原料品	▲20.0	▲7.0	▲6.4	5.7	22.2	10.5	1.5	0.1
鉱物性燃料	▲53.4	▲70.4	▲68.8	▲60.6	▲68.6	▲59.9	0.7	▲1.0
化学製品	▲14.2	▲10.7	▲8.2	1.7	8.2	5.5	12.3	0.6
原料別製品	▲25.5	▲22.0	▲14.1	▲11.3	▲3.7	▲10.6	10.1	▲1.2
鉄鋼	▲26.6	▲32.0	▲27.4	▲29.1	▲20.4	▲18.5	3.3	▲0.7
非鉄金属	3.2	17.2	30.2	41.2	32.3	14.8	2.2	0.3
金属製品	▲35.4	▲28.1	▲21.7	▲12.0	1.7	▲9.6	1.5	▲0.2
一般機械	▲24.5	▲17.7	▲16.8	▲7.8	▲2.8	▲3.0	18.7	▲0.6
電気機器	▲18.5	▲7.8	▲5.5	1.0	4.6	1.0	18.8	0.2
半導体等電子部品	▲7.8	▲0.6	▲0.4	3.3	▲2.7	▲4.0	5.6	▲0.2
I C	▲8.3	▲2.5	▲2.8	0.7	▲7.8	▲6.4	3.9	▲0.3
映像機器	▲45.0	▲19.5	▲28.7	▲9.4	12.9			
映像記録・再生機器	▲45.5	▲20.2	▲29.0	▲7.8	20.7	10.3	0.5	0.0
音響・映像機器の部分品	▲60.3	▲49.8	▲8.9	1.7	6.4	13.4	0.3	0.0
電気回路等の機器	▲22.0	▲15.4	▲13.6	▲2.2	4.8	0.7	2.6	0.0
輸送用機器	▲41.1	▲32.9	▲23.2	▲7.2	▲1.9	▲4.5	23.4	▲1.1
自動車	▲49.9	▲30.0	▲19.4	▲0.5	3.0	▲3.0	16.3	▲0.5
自動車の部分品	▲52.3	▲32.5	▲21.0	▲7.7	4.0	▲2.9	4.8	▲0.1
その他	▲22.6	▲11.4	▲11.7	▲0.1	1.3	▲10.0	13.2	▲1.4
科学光学機器	▲13.4	▲6.6	▲17.6	▲6.9	1.1	▲11.8	2.7	▲0.4

米国向け輸出金額 内訳								
	2020/06	2020/07	2020/08	2020/09	2020/10	2020/11		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲46.6	▲19.5	▲21.3	0.6	2.5	▲2.5	100.0	▲2.5
食料品	▲35.6	▲12.5	▲5.8	10.9	1.8	13.1	0.8	0.1
原料品	▲26.5	11.4	3.5	7.7	29.5	▲13.9	0.6	▲0.1
鉱物性燃料	▲28.3	▲58.8	▲89.7	▲90.6	▲96.4	▲83.3	0.0	▲0.2
化学製品	▲20.3	▲21.8	▲39.3	▲1.6	▲2.1	▲13.9	6.3	▲1.0
原料別製品	▲44.3	▲36.7	▲27.5	▲18.5	▲9.6	▲14.3	5.7	▲0.9
鉄鋼	▲51.8	▲38.2	▲44.4	▲34.0	▲32.3	▲22.1	0.8	▲0.2
非鉄金属	▲18.3	▲46.9	▲43.0	▲40.2	▲39.5	▲16.9	0.6	▲0.1
金属製品	▲53.8	▲33.5	▲17.7	▲11.0	10.7	▲14.3	1.6	▲0.3
一般機械	▲45.5	▲30.2	▲34.8	▲19.4	▲8.6	▲4.9	21.8	▲1.1
電気機器	▲37.7	▲16.5	▲12.5	1.7	12.6	0.5	13.3	0.1
半導体等電子部品	▲40.5	▲21.7	▲15.6	▲5.8	▲1.2	6.1	1.3	0.1
I C	▲45.9	▲25.6	▲20.2	▲4.4	▲11.1	▲5.4	0.6	▲0.0
映像機器	▲44.5	▲12.5	▲31.9	▲3.4	16.4			
映像記録・再生機器	▲49.8	▲23.4	▲33.8	▲7.6	26.4	13.2	1.0	0.1
音響・映像機器の部分品	▲90.5	▲83.9	▲46.7	▲27.2	20.1	6.5	0.2	0.0
電気回路等の機器	▲37.4	▲20.6	▲18.6	4.1	9.4	1.7	1.4	0.0
輸送用機器	▲60.4	▲10.5	▲8.6	12.2	15.3	3.5	41.2	1.4
自動車	▲63.3	▲6.7	▲3.5	19.1	22.5	6.6	33.1	2.0
自動車の部分品	▲58.3	▲19.6	▲18.3	▲1.1	18.6	6.1	5.6	0.3
その他	▲35.0	▲16.9	▲17.5	19.6	▲7.3	▲6.6	10.1	▲0.7
科学光学機器	▲13.8	▲11.8	▲26.0	▲10.8	9.6	2.7	2.4	0.1

EU・英国向け輸出金額 内訳								
	2020/06	2020/07	2020/08	2020/09	2020/10	2020/11		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲41.4	▲44.0	▲32.8	▲24.0	▲19.4	▲18.2	100.0	▲18.2
食料品	▲42.8	▲25.2	▲8.4	▲9.3	11.0	12.1	0.5	0.0
原料品	▲45.0	▲39.9	▲39.9	▲14.7	▲14.3	▲38.1	0.7	▲0.4
鉱物性燃料	▲76.8	▲95.8	▲4.1	▲91.8	▲84.9	▲90.2	0.1	▲0.6
化学製品	▲16.4	▲10.3	▲14.7	▲12.8	2.6	5.7	12.0	0.5
原料別製品	▲39.0	▲35.5	▲35.5	▲32.4	▲17.1	▲20.7	5.7	▲1.2
鉄鋼	1.7	▲32.2	▲37.7	▲47.1	9.7	▲24.7	0.7	▲0.2
非鉄金属	▲37.8	▲25.2	▲45.4	▲52.0	▲28.7	▲20.6	0.7	▲0.2
金属製品	▲46.6	▲35.9	▲42.8	▲25.3	▲20.2	▲22.9	1.3	▲0.3
一般機械	▲43.4	▲43.1	▲34.2	▲26.5	▲19.2	▲8.8	22.6	▲1.8
電気機器	▲39.1	▲29.5	▲20.4	▲16.4	▲12.3	▲11.0	18.8	▲1.9
半導体等電子部品	▲25.9	▲25.4	▲15.5	▲9.8	▲1.0	▲10.5	2.2	▲0.2
I C	▲21.2	▲29.6	▲19.6	▲9.3	▲9.6	▲17.0	1.0	▲0.2
映像機器	▲57.4	▲31.0	▲37.3	▲12.8	15.6			
映像記録・再生機器	▲51.5	▲18.7	▲36.0	2.4	38.8	13.3	1.0	0.1
音響・映像機器の部分品	▲52.3	▲47.0	▲7.0	▲17.8	▲9.7	▲22.8	0.2	▲0.1
電気回路等の機器	▲41.0	▲40.3	▲36.3	▲24.0	▲18.8	▲16.3	1.5	▲0.2
輸送用機器	▲51.2	▲58.6	▲36.6	▲20.5	▲27.6	▲29.4	25.0	▲8.5
自動車	▲47.7	▲59.9	▲41.3	▲20.2	▲34.4	▲35.5	14.4	▲6.5
自動車の部分品	▲71.7	▲52.1	▲17.8	▲14.0	▲3.4	▲9.2	7.4	▲0.6
その他	▲40.0	▲49.7	▲46.6	▲36.8	▲25.0	▲27.1	14.5	▲4.4
科学光学機器	▲22.5	▲25.7	▲22.1	▲14.9	▲10.0	▲17.2	3.6	▲0.6

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2020/06	2020/07	2020/08	2020/09	2020/10	2020/11		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲15.3	▲8.2	▲7.8	▲2.0	4.4	▲4.3	100.0	▲4.3
食料品	8.8	14.8	17.2	18.4	24.5	6.8	1.6	0.1
原料品	▲17.1	▲3.8	▲3.2	7.4	25.9	19.2	2.2	0.3
鉱物性燃料	▲2.2	▲57.3	▲52.7	▲34.7	▲49.1	▲47.5	1.1	▲1.0
化学製品	▲16.3	▲10.3	▲5.3	0.9	9.6	5.7	16.5	0.8
原料別製品	▲22.0	▲16.8	▲10.7	▲6.3	0.5	▲6.5	12.8	▲0.9
鉄鋼	▲28.2	▲29.5	▲27.5	▲26.8	▲18.6	▲15.5	4.4	▲0.8
非鉄金属	3.8	19.4	33.7	54.4	41.9	23.3	3.5	0.6
金属製品	▲27.2	▲24.2	▲18.6	▲11.8	▲1.7	▲8.6	1.6	▲0.1
一般機械	▲10.4	▲5.7	▲6.0	0.1	3.2	▲4.7	18.3	▲0.9
電気機器	▲9.6	▲2.2	▲2.3	2.9	4.9	1.4	23.5	0.3
半導体等電子部品	▲4.6	1.7	1.0	4.2	▲2.9	▲4.3	9.1	▲0.4
I C	▲6.2	▲0.9	▲1.8	1.1	▲7.8	▲6.2	6.5	▲0.4
映像機器	▲43.1	▲21.6	▲22.2	▲16.7	▲2.6			
映像記録・再生機器	▲40.4	▲18.0	▲24.7	▲15.8	4.6	2.9	0.3	0.0
音響・映像機器の部分品	▲40.0	▲34.3	▲2.3	4.3	▲2.9	15.5	0.4	0.1
電気回路等の機器	▲15.7	▲9.7	▲10.1	▲0.6	6.2	1.4	3.6	0.0
輸送用機器	▲28.1	▲18.8	▲19.1	▲12.6	▲0.8	▲12.3	9.1	▲1.2
自動車	▲19.2	▲16.1	▲9.6	▲3.9	0.2	▲5.8	4.8	▲0.3
自動車の部分品	▲43.1	▲32.6	▲25.5	▲15.2	▲5.4	▲11.2	3.6	▲0.4
その他	▲16.0	▲1.3	▲9.6	▲3.5	8.3	▲12.5	14.9	▲2.0
科学光学機器	▲10.6	▲1.8	▲15.5	▲5.8	▲0.0	▲14.6	3.2	▲0.5

中国向け輸出金額 内訳								
	2020/06	2020/07	2020/08	2020/09	2020/10	2020/11		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲0.2	8.2	5.1	14.0	10.2	3.8	100.0	3.8
食料品	17.7	▲8.1	▲1.6	14.9	10.5	9.2	0.9	0.1
原料品	▲36.2	19.3	15.0	11.2	30.3	40.3	1.7	0.5
鉱物性燃料	72.0	▲57.7	▲58.4	▲14.1	▲46.2	▲20.1	0.6	▲0.2
化学製品	▲0.6	0.8	2.5	4.3	4.2	1.9	16.7	0.3
原料別製品	15.6	14.0	23.2	30.4	9.8	2.8	11.3	0.3
鉄鋼	16.4	9.9	18.3	14.3	▲0.0	▲4.8	3.1	▲0.2
非鉄金属	72.0	72.4	81.4	101.6	34.5	31.4	3.5	0.9
金属製品	▲7.4	▲9.4	▲1.5	0.8	3.3	▲4.0	1.6	▲0.1
一般機械	▲3.3	8.9	6.0	20.7	15.4	2.4	21.7	0.5
電気機器	▲0.8	12.2	5.6	4.4	4.6	2.2	20.9	0.5
半導体等電子部品	▲0.3	18.3	10.0	▲14.5	▲16.1	▲17.0	5.4	▲1.2
I C	▲1.1	22.7	9.0	▲28.8	▲29.7	▲26.7	3.3	▲1.2
映像機器	▲28.0	▲11.8	▲20.0	▲18.2	7.2			
映像記録・再生機器	▲13.1	▲1.5	▲28.0	▲19.2	11.3	5.2	0.5	0.0
音響・映像機器の部分品	▲37.0	▲41.1	20.9	19.2	▲11.4	9.0	0.6	0.0
電気回路等の機器	▲0.0	5.1	▲3.2	10.0	15.7	9.0	3.7	0.3
輸送用機器	7.1	17.9	18.7	23.5	16.1	4.1	11.7	0.5
自動車	18.8	19.0	29.0	33.6	22.4	12.3	6.7	0.8
自動車の部分品	▲7.1	16.2	7.8	8.8	5.0	▲4.4	4.8	▲0.2
その他	▲10.8	4.8	▲8.7	13.3	18.3	9.0	14.5	1.2
科学光学機器	▲17.4	▲0.9	▲17.5	▲5.6	▲10.9	▲18.1	4.0	▲0.9

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成